

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園

園だよりNo. 12

2025年2月17日発行

2月の聖句

「どんなことにも感謝しなさい」

I テサロニケの信徒への手紙

5:17

「どんなことにも感謝しなさい」

今月の聖書の言葉は、聖パウロが困難にあるテサロニケの人々に送ったお手紙の一節です。私たちは、嬉しいことが起きた時には自然と感謝の心が芽生えます。でもつらい時、悲しい時には、感謝する気持ちにはなりません。

でもパウロさんは敢えてどんなことにも、どんな時にも笑顔で感謝しなさいと、苦しみにある人々に励ましのメッセージを送りました。

人は沢山の辛い事、悲しいことを体験することによって、辛い、悲しみに苦しんでいる人に、より深く寄り添うことが出来ます。

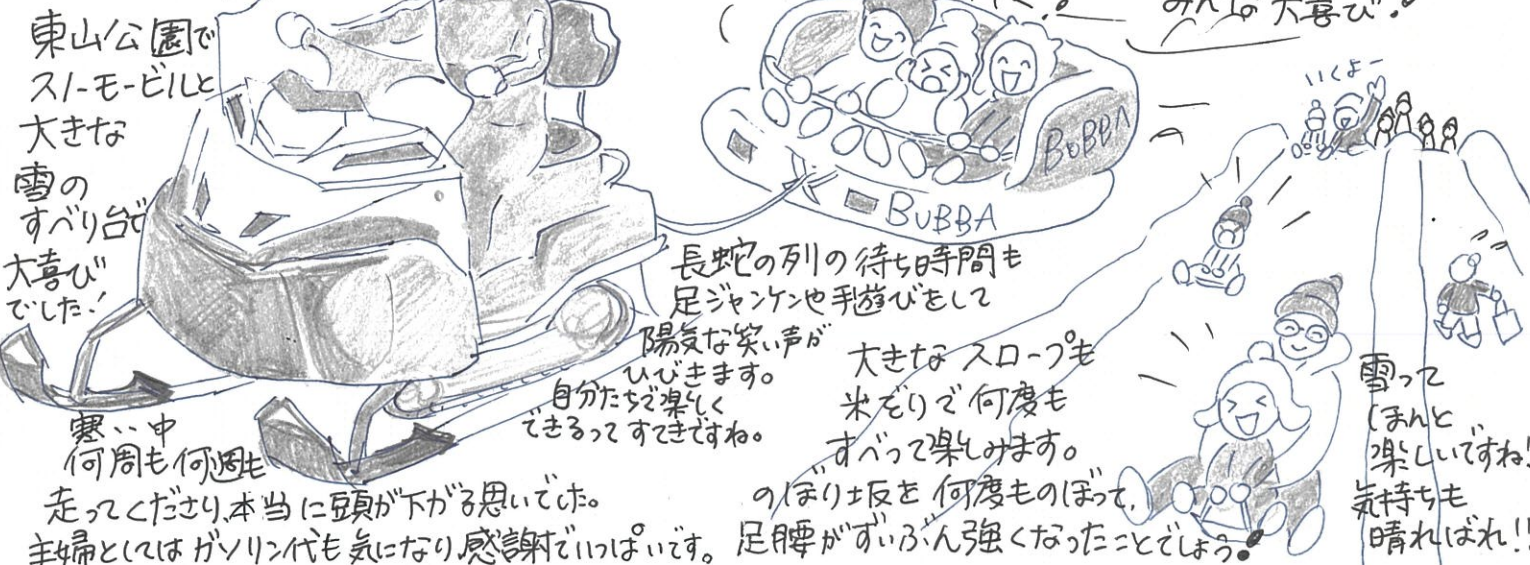
辛かった人生を歩む中で、人は豊かで、しなやかな感性が育てられます。

まもなく春の訪れです。厳しい冬の寒さを乗り越えた芽吹き季節です。

チャプレン・司祭 越山健蔵

スノーモービルに大行列

2月13日(木)は
年中さんと年長さん。
2月14日(金)は
年少さんと
いっしょに遊びました。



この遊びの広場は、志文に本社がある
馬淵建設さんが毎年子どものために
作ってくださる雪遊びの広場です。
スノーモービルで長いコースを走って
ふわふわの空気を引っぱってくれます。
カーブや急な坂道に
みんな大喜び。

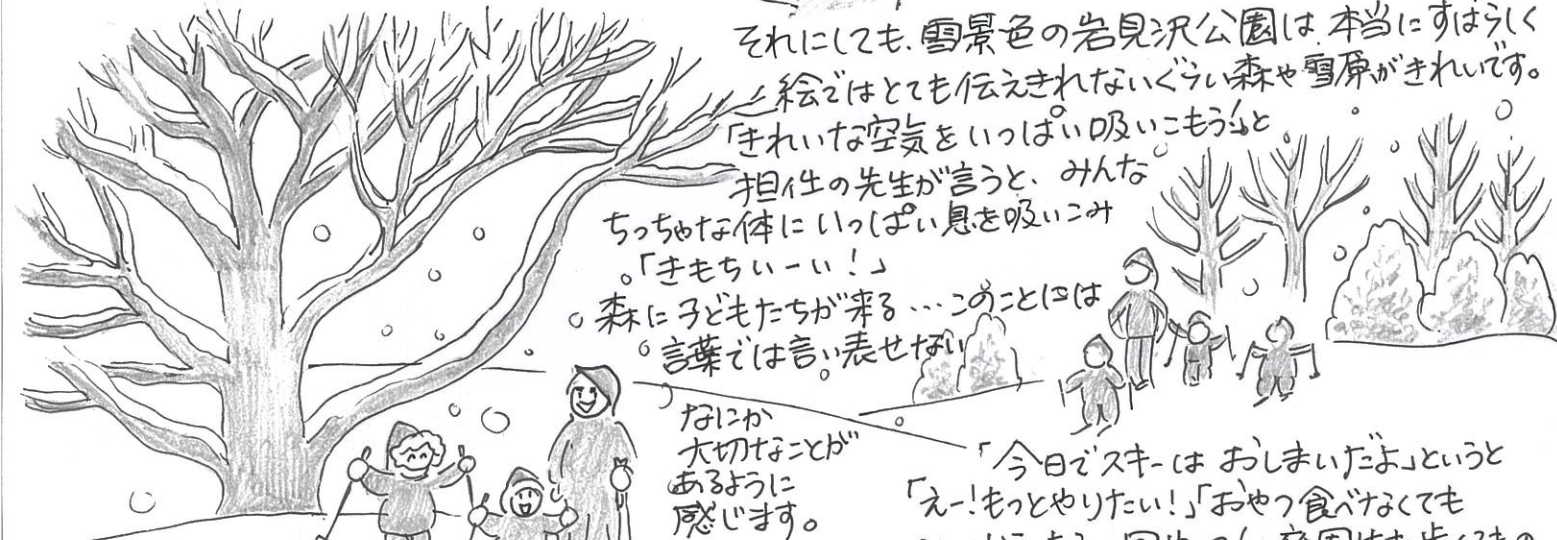
2月14日(金)は年中さんのスキー遠足でした。

大雪の中のスキー遠足

高速道路がよするほどの大雪の中でした。
みんなはとってもやる気まんまんです。
この日のみんなの目標は



歩くスキーの会の皆さんは、みんなが到着する
1時間以上前からコースをつくったり準備を
してくださっていたので、頭の上には雪がつもって
いました。



いつものコースとちがって、
ゆるやかな坂があるところ、
難所もあり、チャレンジの楽しみもあり。
なるべくすぐに助けをいれ、ぐと見守る先生たち。
子どもたちは、何回転んでも「自分で」と
思っているのが、助けを求めないで
雪まみれで何度も何度も自分で立ち上がり、
いたそうです。甘えなかったあの子どもも、この子ども...

「今日でスキーはおしまいですよ」というと
「えーもっとやりたい!」「おやつ食べなくても
いいからもう一回やって!」卒園生も歩くスキーの
大会に出て活躍している子もいるそうです。
「けんばれ!自分でやろう」とする姿に
見守っていた先生は、思わず涙が出たと言います。
子どものか、その目標をもっと大切させてほしいですね。

527人・・・昨年度の子どもの自殺数

昨年度、日本で自殺した人の人数が発表されました。大人の自殺数は2万268人で統計史上2番目に少なかったのに(それでも多いですが)、なんと!子どもの自殺数は527人と過去最多!高校生349人、中学生163人、小学生15人...きっと苦しかったことでしょう。その気持ちは私などには想像もつきません。いったいどうしたら、どうしたら...

私たちに何かできるとしたら、誰かと比べる「社会的自己肯定感」ではなく、「絶対的自己肯定感」を、ちっちゃな頃からしっかり感じられる毎日を積み重ねるしかないのでしょうか。

「自分は少しずつ前進してる」「自分を大事に思ってくれる人がいる」「大好きなものがある」「失敗してもやり直せる」「困った時に周りの人に助けてと言える」「これは苦手でもこっちは得意」...それらが通用しないほどの絶望がこの子たちを襲ったとき「天に生かされている」と思って踏みとどまれるか...「生かされている命」を考えると、子どもが自然の中で過ごす大事さに立ち戻ります。